

2009年9月14日(月) 18:00-19:30

レセプション・スピーチ

(2)「国際金融危機後の韓国と KAMCO の役割」

イ・チョルフィ 韓国資産管理公社 会長兼 CEO

私は、一橋大学留学をはじめ、日本の大蔵省、野村総合研究所、及び駐日韓国大使館での勤務など、計 10 年ほど日本での経験があり、微力ながら両国の共同繁栄のために尽くしたいと常々考えている。

現在、韓国の金融危機に対応するために設立された韓国資産管理公社 (Korea Asset Management Corporation: KAMCO) に関わっている。本日は、世界規模で状況が変わってきている今日、欧米を中心に注目を集めている KAMCO を紹介し、金融危機におけるその役割、また今後の方向性について話したい。

97 年のアジア金融危機の際、大量に発生した金融機関の不良債権を買い取り、短時間で海外に売却した。(総額 110 兆ウォンの不良債権を、40 兆で買い取り、うち 80 兆ウォンの不良債権を 43 兆ウォンにて売却済。)

IMF 体制から抜け出し、使命を終えた KAMCO は整理すべきという意見もあったが、危機に備えた常設機構として残ることとなり、結果的に昨年の金融危機において重要な役割を果たすこととなった。具体的には、金融危機の影響で信用不安に陥っていた貯蓄銀行 (日本の信用金庫に相当) のプロジェクト・ファイナンス貸出債権を積極的に買い取り、信用不安解消に決定的な役割を果たした。

KAMCO は、韓国政府による約 40 兆ウォンに上る構造調整基金の運用機関として指定され、金融危機対応の中心機関として機能している。これにより、金融機関の不良債権処理だけでなく、資金の必要な企業へ投資、不動産など資産の買い取りができるようになった。今年第 2 四半期には、韓国経済は低迷していたが、KAMCO のような常設機関があったために素早い対応ができ、これが経済回復の原動力となったと見る向きも多い。

去年の 1 月に CEO に就任して以来、金融機関への支援という役割以外に、個人の信用回復にも取り組んでいる。これは金融信用を無くして困っている個人を対象とするもので、債務を買い取り、高金利から低金利への借り換えなどの債務調整を行うもの。この業務についても高い評価を得ている。また、上手く管理されていない国有財産を政府から委託を受け、管理する業務には、全職員の 1/3 が従事するセグメントとなっている。

これらは企業・個人・政府、各経済主体の市場の失敗を一時的に吸収する、いわば「経済的セーフティネット」とも言える。CEOに就任してこのようなビジョンを打ち出したのだが、これは開発途上国に紹介することができる試みだと認識している。また、世界銀行やアジア開発銀行などが実際に興味を示している。

今後は、過去の経験を生かし、債権の買い手として海外進出を考えている。日本市場については参入が難しい面もあるが、その分魅力的な側面もある。その他の事業としては、構造調整を行うにあたり取得した韓国の大企業の株式を国外に売っていくものがある。今年・来年には、大宇インターナショナル、教育保険の会社、ソウル建設などの株の売却を予定しており、日本企業からの資本参加も期待している。

最後に、来年は両国の長い歴史の中に禍根を残す1910年（日韓併合）から100年という節目の年である。1965年の国交回復以来、多くの方々の尽力にもかかわらず過去の傷は癒えていないと感じる。教育などの背景により、過去の歴史に縛られていないはずの若い世代が反対話的な態度をとるのを個人的に憂慮している。両国の明るい未来のために、知恵を出し合って将来のための記念碑的プログラムを作ることを提案したい。

\*\*\*\*\*